
次世代OA環境の再構築に向けて ～日立の事例と検討のポイント～

2024年1月
株式会社 日立製作所

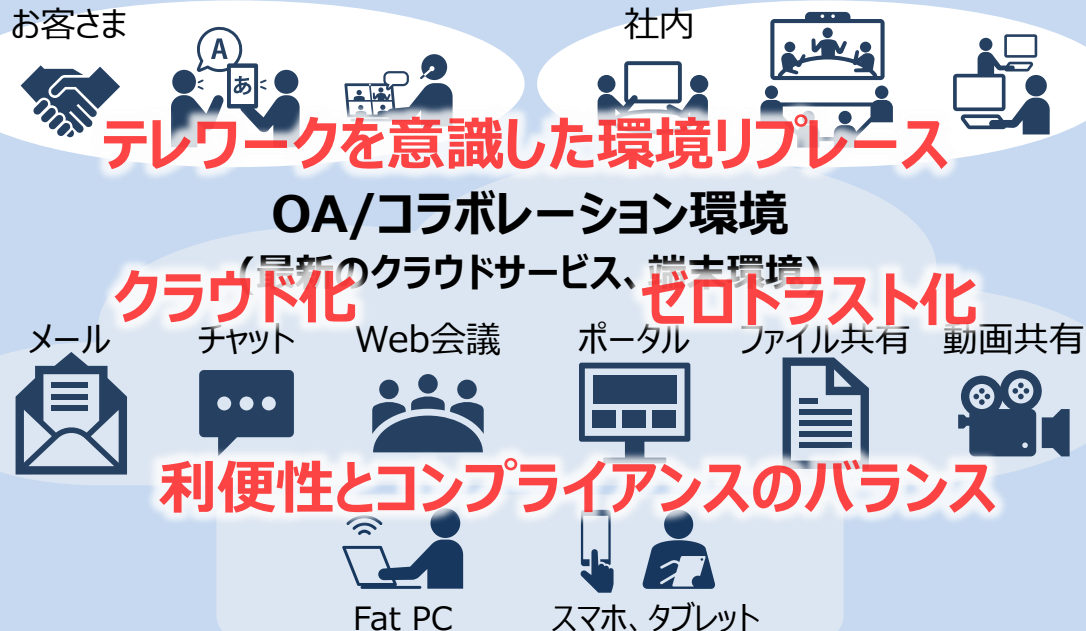
OAシステムのクラウド化が急速に進む背景

- OAシステムの再構築が**2025年に集中**：利便性の高いOA/コラボレーション環境の実現とセキュリティの強化の両立
 - コロナ禍で緊急導入した**テレワーク環境**をリプレースしたい(2020年導入⇒**2025年**がリプレースのピーク)
 - Windows10 EOSが迫っており、**Windows11化**を皮切りに、最新のシステム環境にしたい(**2025年10月EOS**)

利便性の高いOA/コラボレーション環境

(営業・企画)
お客さまサービスの向上

(開発・保守)
生産性・チームワークの向上

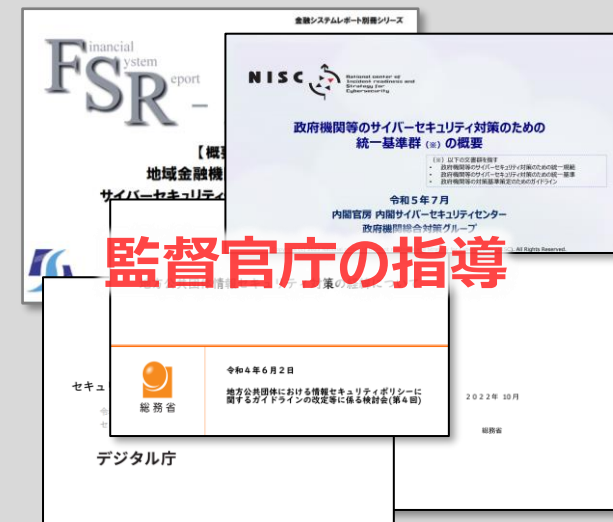


セキュリティの強化

経営層の関与
(体制・監査・訓練)

リスクへの構え
(識別・防御・検知)

有事への備え
(対処・修復)



各省庁よりクラウドサービスを安全に利用するためガイドラインを发出(総務省、経産省、金融庁、他)

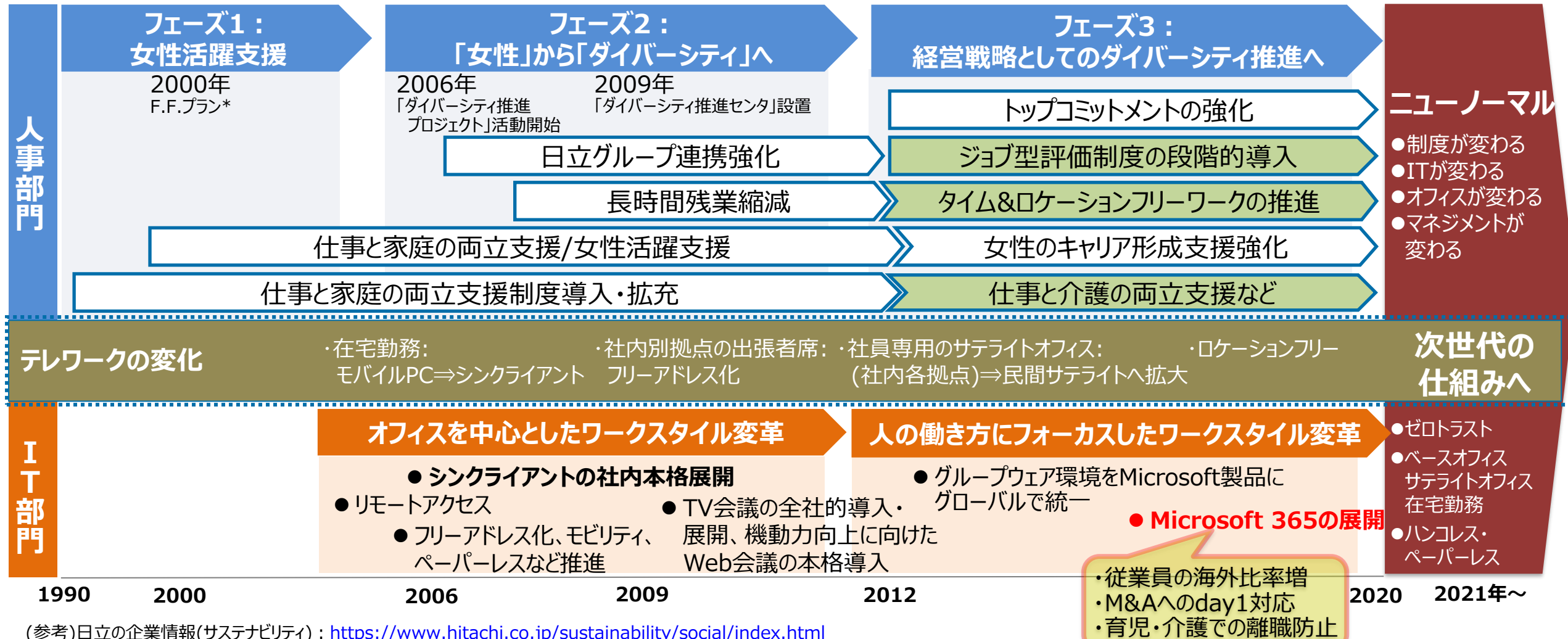


2014年：米国国立標準研究所(NIST) CSF (Cyber Security Framework)

日立の事例：OAのクラウド化により何をめざしたのか

● 人事部門の施策、テレワークの形態の変化に応じて、OA環境も変化

➤ 多様な個と組織の働き方の変遷に合わせ、テレワークもさまざまな形態が可能に



(参考)日立の企業情報(サステナビリティ) : <https://www.hitachi.co.jp/sustainability/social/index.html>

* : F.F.プラン (ジェンダー・フリー & ファミリー・フレンドリープラン) : 仕事と家庭の両立支援・女性の活躍支援を進め、社内の意識改革を促進する取り組み

Teamsをチームコミュニケーションの中心として使いこなす！

チャット・通話

コラボレーション

オンライン会議

雑談・相談・1on1
日常のコミュニケーション

メールに代わる
非同期な情報共有

大小・社内外問わず
会議のデファクトスタイル



言語化



心理的安全性



ツールの使い方とマナー

コミュニケーションをタイム&ロケーションフリーにし、業務効率化に貢献

日立では

Activity-Based-Working (ABW)
働く場所は活動から選ぶ



Co-Working

オフィスを、コラボレーションによるアイデア創出を目的とした空間に改装

同時に、サテライトオフィス増、在宅環境の支援を実施し働ける場所を多様化

従業員は自分のライフ&ワークスタイルに合わせて働く場所を選択

2017年5月WannaCryによる大規模なランサムウェア感染発生

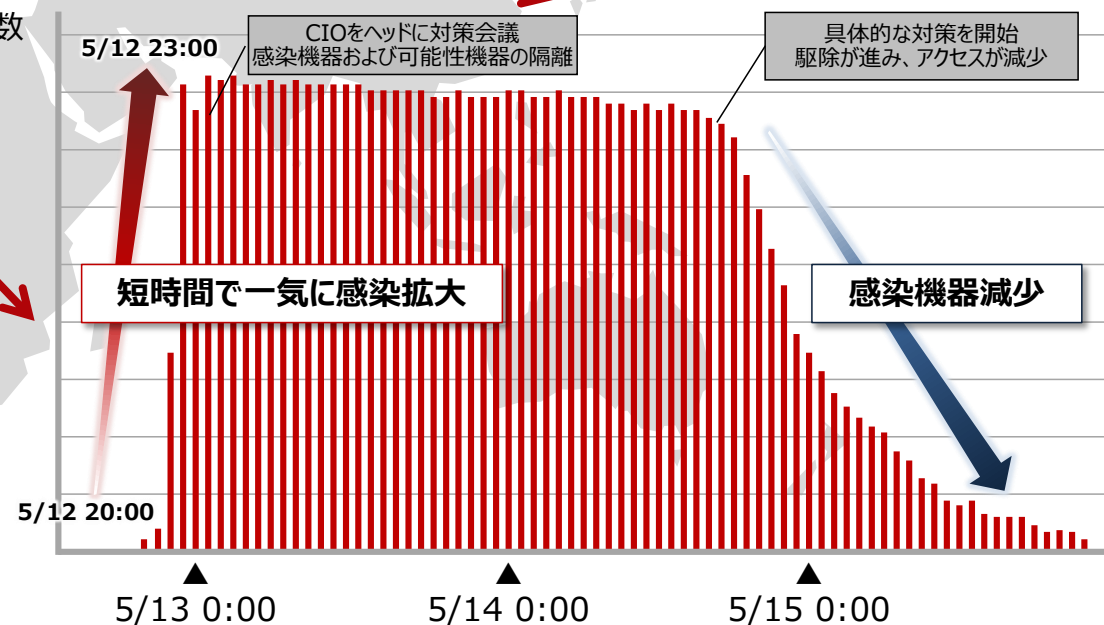
当該機器顕微鏡(マイクロスコープ)



1台のパッチ未適用の端末

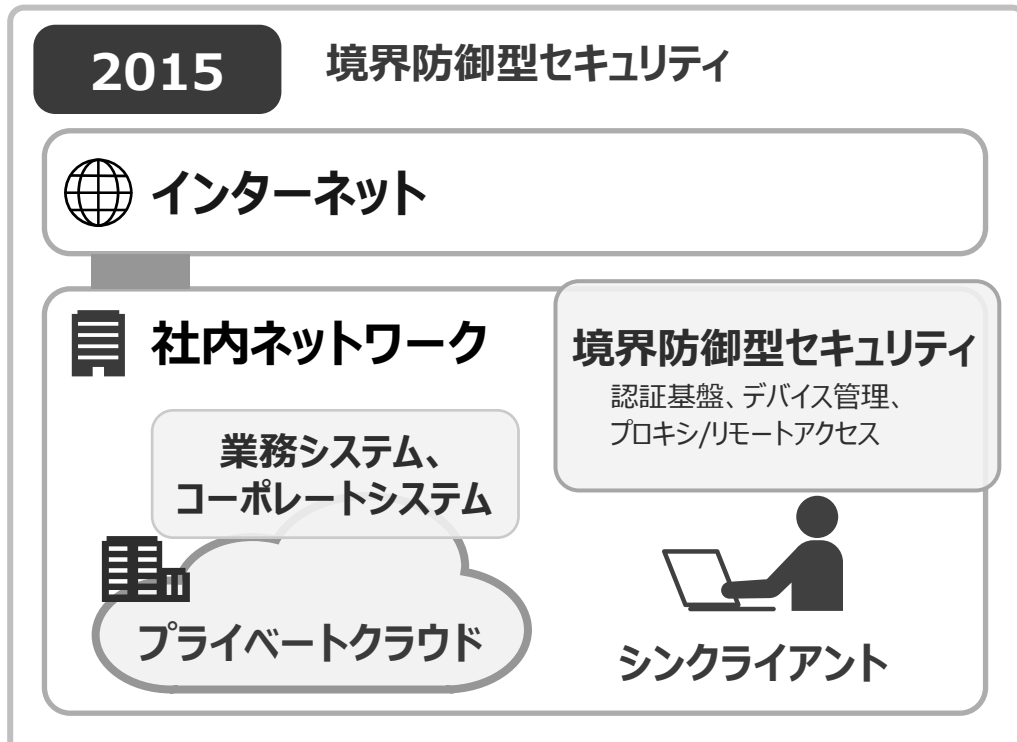
**社内のWANを經由して全世界に感染が拡大
⇒ 社内は安全という考えの抜本的な見直しが必要**

パケット数

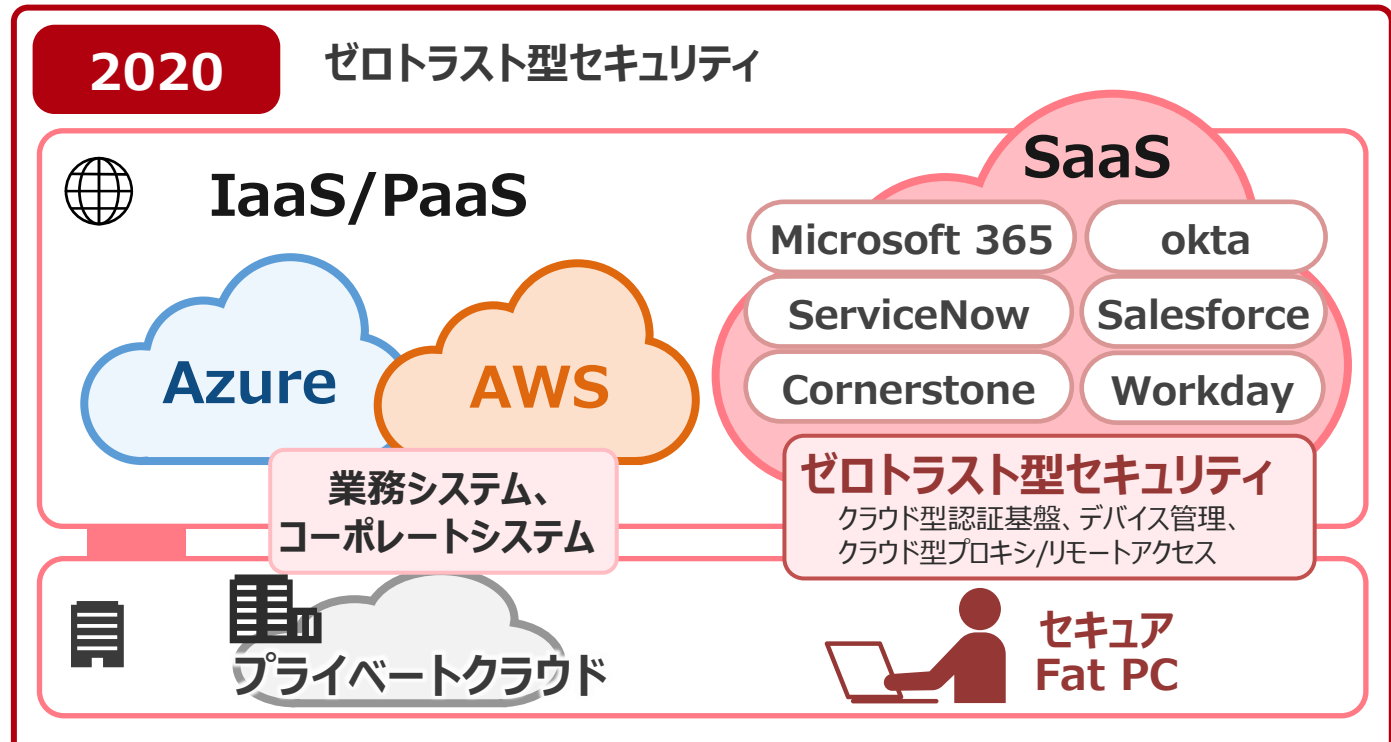


目標：ユーザー30万人の社内ITシステムをクラウドで変革

- 日立グループにおける事業のグローバル化/M&Aの増加/ビジネスパートナーとの協創といった環境変化に伴い、グローバルスタンダードのSaaSを活用して、柔軟かつ迅速に対応できるITシステムへの変革を推進
 - 常に世の中のセキュリティ脅威に追従していくことが重要なため、インフラ基盤としてゼロトラスト型セキュリティやセキュリティPCを採用



- 社内ネットワークに閉じたITシステム
- インターネットとの境界面で一括してセキュリティ対策 (境界防御型セキュリティ)

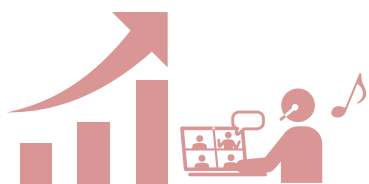


- インターネットを中心とした社内ITシステムに変革
- グローバルスタンダードなSaaSを活用し、M&A直後の会社やパートナー企業とも迅速に情報共有/意思決定



経営部門：ダイバーシティの推進、タイム&ロケーションフリーワークの推進

「人」にフォーカスしたワークスタイル変革、仕事と家庭・介護の両立



利用者：働き方の定期的モニタリングによる従業員エンゲージメント向上

利用者が使うITを選択、個人の働き方に合わせたIT環境の提供



ITシステム部門：インターネットを活用した最適なネットワーク環境

回線(専用線)の縮減/低速化による運用費削減



ITシステム部門：シンプル・軽量な基盤環境

クラウド/SaaS利用による資産の保有・維持・定期更改からの解放



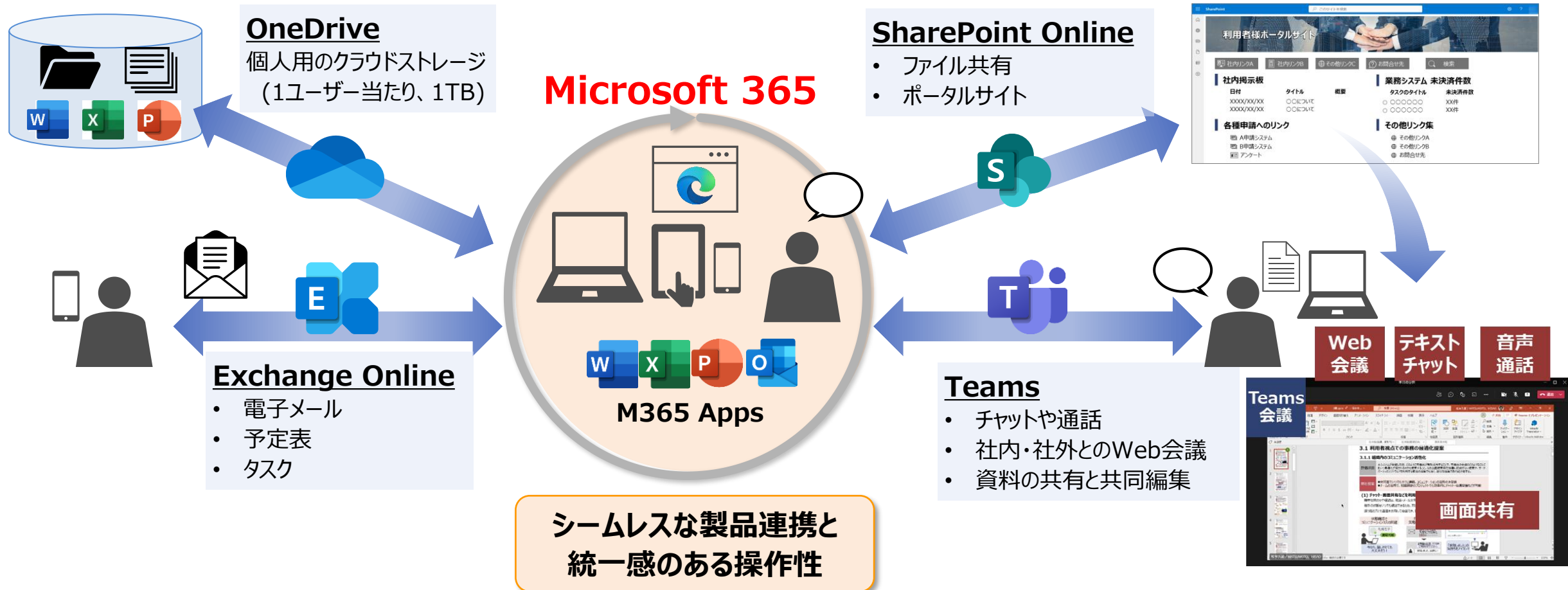
ITシステム部門：クラウドに適合したセキュリティの確保

多様化するデジタル環境の安全を確保

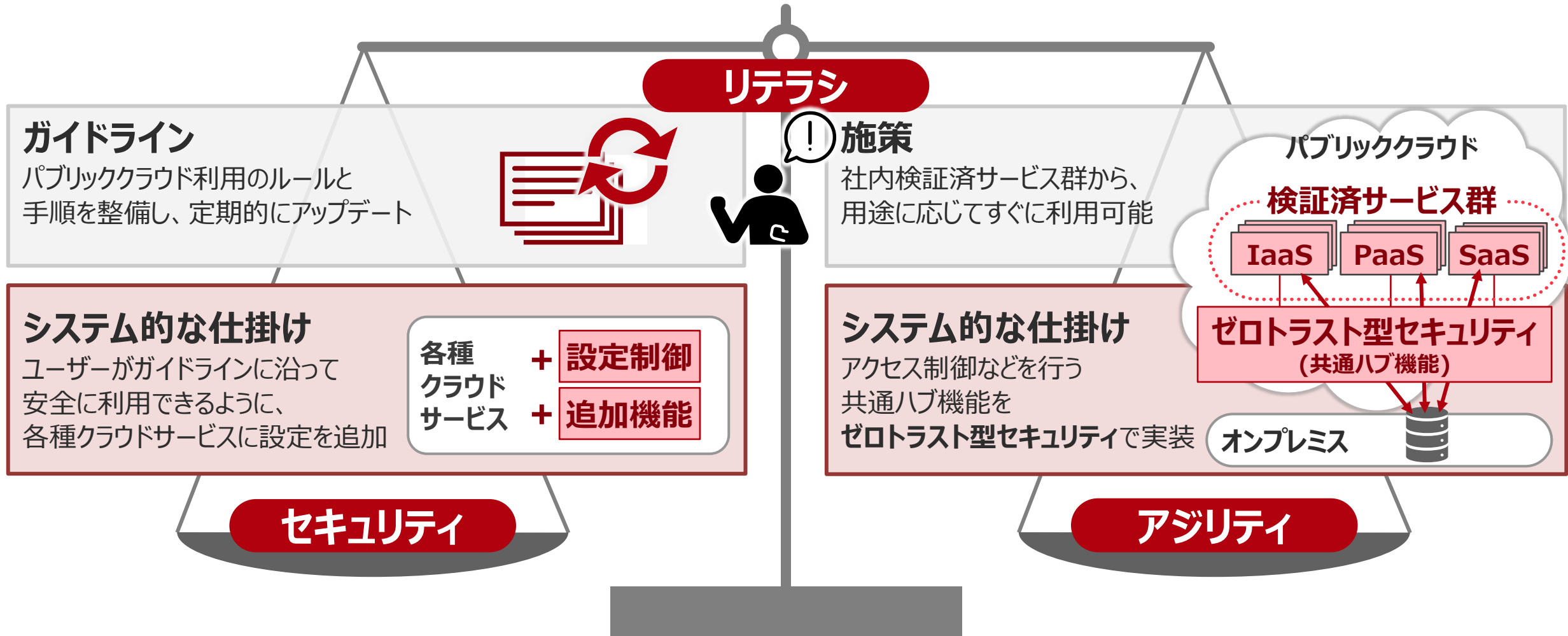
OAシステムのToBe像を考える

ワークスタイル変革の要として、クラウドサービスを最大限に活用

クラウドサービスを最大限に活用し、個人やチームの生産性向上、快適なリモートワーク環境を実現

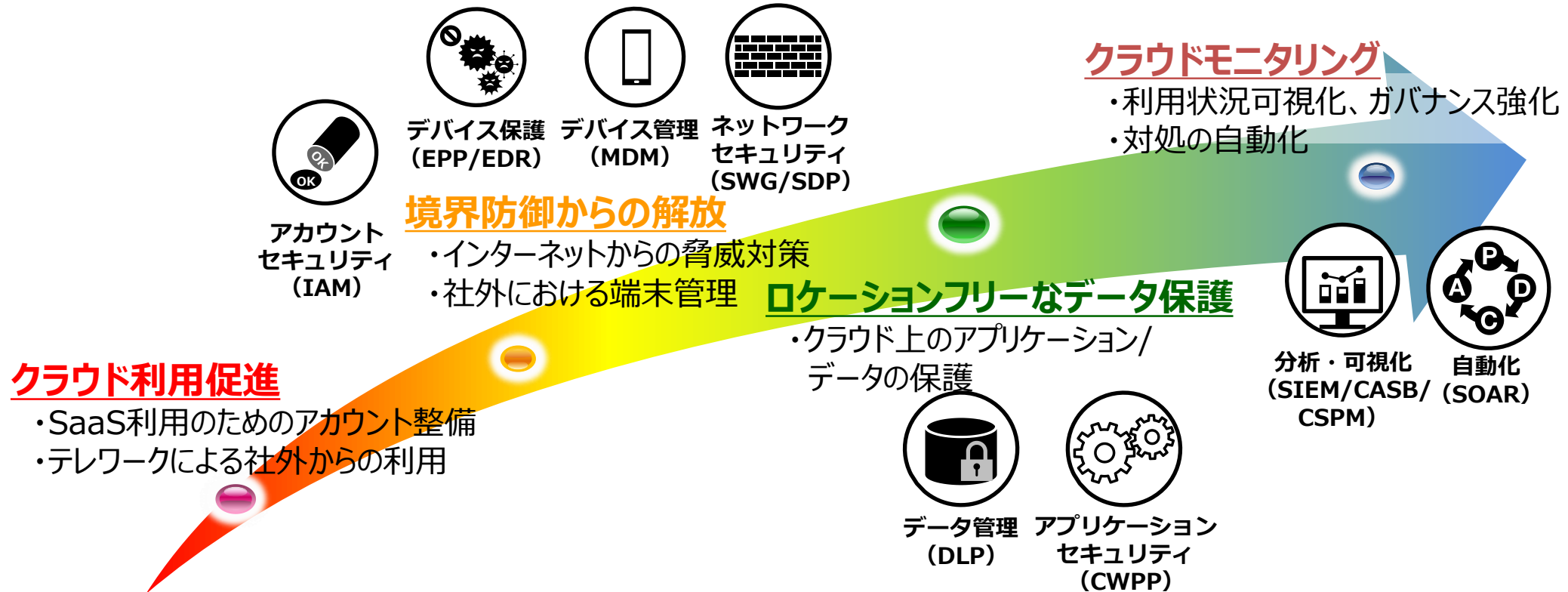


システムの仕掛けと、セキュリティガイドライン、施策を整備し、
グローバルで多岐にわたる事業体の社員が、簡単・安全にクラウドを利用可能なITシステムを提供

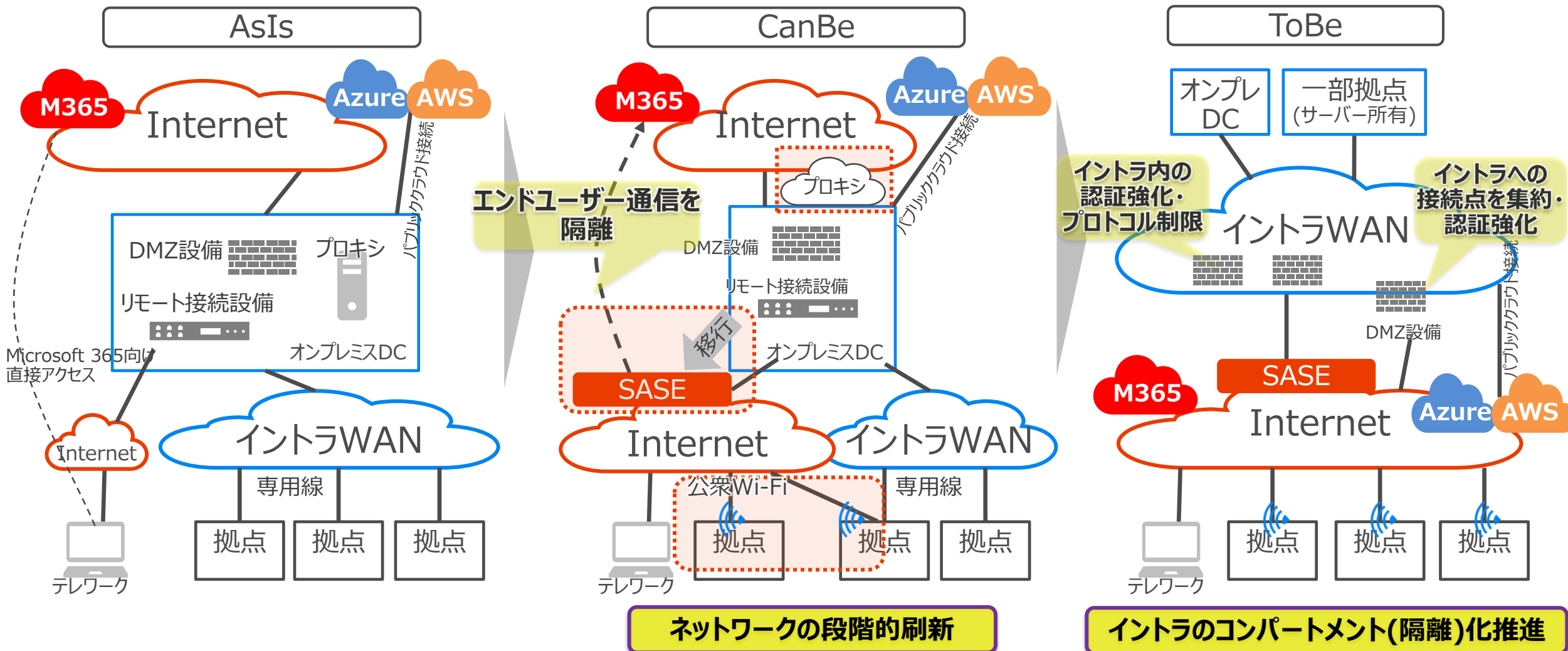


物理的ロケーション拘束の解放をめざし、クラウド促進と境界防御脱却

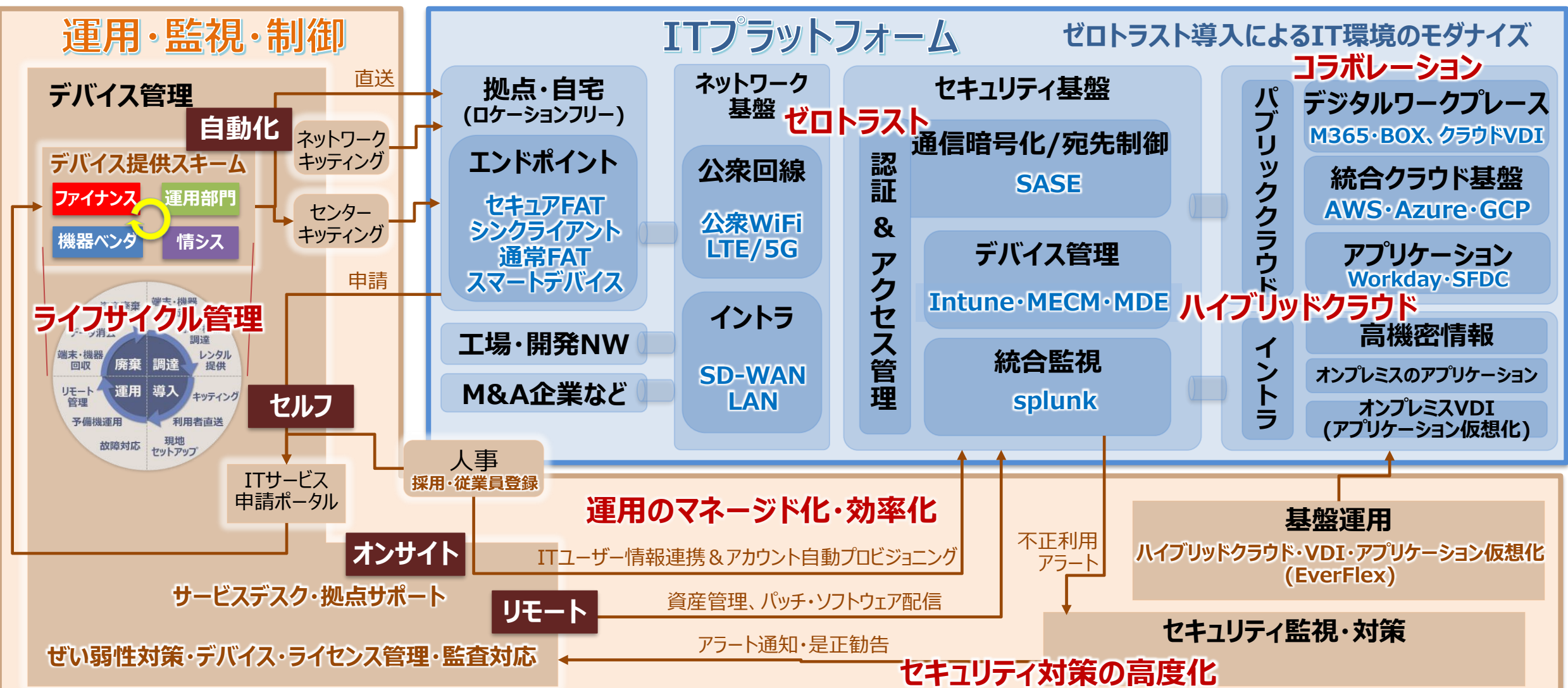
一度にゼロトラストシステムを実現するのは、ユーザビリティ面・セキュリティ面ともに急激な変化となるため得策でない。クラウド利用の推進から着手し、エンドポイント・ネットワークセキュリティ範囲の拡大、クラウドの安全管理と段階を経ての実装が望ましい。



勤務場所に依存しない、大容量通信に対応したインターネットベースのサービス提供



システムのToBe像を共有し、運用のToBe化を段階的に実施



目的と手段を見誤らない

常にToBe像を意識する

日々進化する領域のため段階的に進める
(ToBe像も進化する)



Hitachi Social Innovation is
POWERING GOOD